Column

「リケジョ」という言葉が無くなる日

こんにちは．今回のコラムは久留米高専の黒木祥光がお送りします．コラムのタイトルは令和3年3月にJST（科学技術振興機構）による女子中高生の理系進路選択支援プログラム「モノづくりって楽しい！ ～久留米発理工系女子の萌芽支援プロジェクト～」の一環として行ったシンポジウムにおいて，パネリストの方々が最後にまとめた言葉です．短いタイトルですので少し補足しますと，「理工系に進む女性が増え，そのような日が来れば良いですね」ということです．本年度の最初にお送りしたメッセージ「異なる意見に心を開く～「多様性の科学」に学ぶ～」にも書きましたが，イノベーションを起こすには多様な意見が欠かせません．しかし，「リケジョ」という言葉があるということは，理工系分野の女性が少なく，男性に偏っていることを意味します．今回のコラムでは，リケジョに関する日本のちょっと悲しい現状と，これからの希望について書きたいと思います．

さて，私自身について少し説明します．私が育った家庭は両親と弟の4人家族でしたので，家庭内の女性は母のみでした．普通高校に進学後は理系を選択し，工業大学に進学しました．高校では3年間男子クラスで，大学で所属した学科では50名中女子学生は3名のみでした．現在の職場に赴任したのは約20年前ですが，当時の女性教員はゼロでした．現在は2人兄弟の父で，家庭内の女性は妻のみです．公私共に男性が多数派の環境ですね．ところが，令和2年度から3年度にかけて，学内で男女共同参画推進委員会の委員長を，また，それに合わせて久留米市の男女平等推進センター運営委員会副委員長を務めることになり，国際的な視点を含めてリケジョについて考える機会を得ました．その経験を通じて何か貢献することができないかと冒頭の支援事業に応募し，ささやかな活動を始めました．その甲斐あってか本校の女性受験者数は本年度が過去最高となりました．このような活動の背景には，平成24年にタイの大学に留学する機会があり，理工系の学部でも女性がほぼ半数，特に理学系の大学院では女性の方が多い状況を知り，「日本のリケジョはなぜ少ないんだろう？」と考えたことが伏線にあります．

Copyright © 2023 The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

現在の日本の状況を少しご紹介しましょう．以下に紹介する各種データはネット上で検索できますが，様々なデータと考察が参考文献（1）にまとめられていますので，興味のある方はそちらをお読みください．まず，OECD（経済協力開発機構）加盟の38か国の比較です．工学・製造・建築分野における高等教育機関の女性の割合を見ますと，日本は16%で最下位（OECD平均は26%，1位のアイスランドは39%）です．自然科学・数学・統計学の分野でも日本は27%で最下位（OECD平均は52%，1位のスロバキアは65%，下から2位のベルギーは40%）です．こちらは断トツの最下位といえます．大学のキャンパスにいる学生は女性の方が多い，というのが世界標準ですので，私のタイの経験はまさに世界標準に接した驚き，といえるでしょう．それでは，日本における女子生徒の理数系能力が低いかというと，そうではありません．15歳の男女が受ける国際テストPISAを見てみますと，日本における女子生徒の成績は確かに男子生徒よりも若干低いですが，数学，理科の双方で男女とも世界のトップクラスにあります．では，なぜ日本が特殊な状態にあるのでしょうか．その背景には，日本社会におけるジェンダー・ギャップの大きさ（政治が特に指数が低く，156か国中147位）とジェンダー・ステレオタイプ，つまり性差による固定的な思い込み，にあるようです．ジェンダー・ステレオタイプの影響で，数学や理科を好きな女子中学生自身が，嫌いであるように演じているという分析結果もあります．

このような状況の下，我々は何をすればよいでしょうか．まず，ジェンダー・ステレオタイプによって自分の素直な気持ちを表現できない人がいれば，性別を問わず，素直に表現できるよう理解し，応援してはいかがでしょうか．先輩リケジョのロール・モデルが少なく，進路選択のイメージがつかみにくいといわれていますが，各種報道のとおり，東京工業大学が次年度の入試から女子枠を設けますので，次第に増えていくことでしょう．冒頭に紹介したJSTによる女子中高生の理系進路選択支援事業（https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/）や内閣府男女参画局のリコチャレ（https://www.gender.go.jp/c-challenge/about_rikochalle/index.html）も参考になります．ジュニア会員の皆さんは既に理工系に興味があると思いますので，理工系に少しでも関心のある友人がいましたら，まずはジュニア向けオンライン・クラスの視聴から参加を促してみてください．「以前はリケジョという言葉があってね」と話す日を心待ちにしています．

（久留米工業高等専門学校　黒木祥光）

参考文献

（1）横山広美，なぜ理系に女性が少ないのか，小木田順子（編），幻冬舎，東京都，2022．